

かつて蚕糸業に関わる先人たちは、豊らしを支える蚕を「蚕様」と呼び、蚕の神様に豊作祈願し、蚕に感謝して供養し、手を合わせてきました。ところが、その後の養蚕業の衰退と新たな産業への転換が図られる中で、「養蚕講」や「蚕玉講」が解散、そのまま放置されてしまった碑や祠も多く見られます。

しかし、大社本社宮のおむす元の中洲神宮寺南町は遺ります。町内の若宮八幡社の境内に「蚕玉社」が祀られています。木造で築70年以上のため老朽化したので建

て替えたのです。「養蚕が盛んだった歴史を伝える祠を後世に遺そう」という意気込みです。諏訪市市町村に14の基の蚕神を確認しましたが、建て替えを行ったのはここだけです。

石は、地元産の神宮寺石が豊富に採れました。神宮寺石は、少しあざやかな色を帯びています。掘りつくされて今はありませんが、柔らかに細工しやすくしかも腐蝕することはないといわれています。刻んだ文字が、はつきり残るという事で諏訪地方の墓地に多く見ることが出来ます。湯の脇の温泉寺上の高



島藩の御廟所にも数々あります。新しい蚕玉社の石祠の背面に「奉納 古河一浩 石工 北原大貴」とあります。鎮座祭では餅投げが行われ、蚕玉様の熨斗をつけた紅目の餅が全戸に配られました。

—— 随時掲載  
詳しい場所などの問い合わせは諏訪塾事務局（電話070・8323・2107）へ。

- ・ぶらり諏訪塾の冊子は諏訪市観光案内所（JR上諏訪駅内）
  - ・れすしらん割烹いすみ屋（諏訪市諏訪）
  - ・書店「言事堂」（諏訪市末広）
  - ・すわ大昔情報センター（諏訪市博物館内）
- て販売中です。

今回の筆者



小野川恵美子さん

外国籍住民に日本語学習の支援をするボランティアサークル「諏訪日本語教室」の代表を務めています。

養蚕が盛んだった歴史を今に伝える諏訪市中洲神宮寺南町の蚕玉社

